



平成28年7月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成28年6月10日

上場会社名 株式会社 シーズ・ホールディングス
コード番号 4924 URL <http://ci-z-holdings.com/>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役社長
問合せ先責任者 (役職名) 取締役財務部長
四半期報告書提出予定日 平成28年6月13日

(氏名) 石原 智美
(氏名) 小杉 裕之

TEL 03-6419-2500

配当支払開始予定日 —
四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成28年7月期第3四半期の連結業績(平成27年8月1日～平成28年4月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
28年7月期第3四半期	26,528	1.7	4,328	11.0	4,293	8.5	2,844	12.9
27年7月期第3四半期	26,088	2.2	3,898	△27.2	3,956	△26.7	2,519	△23.8

(注) 包括利益 28年7月期第3四半期 2,854百万円 (9.7%) 27年7月期第3四半期 2,601百万円 (△21.6%)

	1株当たり四半期純利益		潜在株式調整後1株当たり四半期純利益	
	円 銭		円 銭	
28年7月期第3四半期	60.27		—	
27年7月期第3四半期	50.61		—	

(注) 1. 平成27年8月1日付で普通株式1株につき普通株式2株の割合で株式分割を行っております。
1株当たり四半期純利益は、前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して算定しております。
2. 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在していないため記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率		1株当たり純資産	
	百万円		百万円		%	円 銭		
28年7月期第3四半期	26,968		22,085		79.1	452.27		
27年7月期	24,759		20,428		82.5	432.94		

(参考) 自己資本 28年7月期第3四半期 21,340百万円 27年7月期 20,428百万円

(注) 平成27年8月1日付で普通株式1株につき普通株式2株の割合で株式分割を行っております。
1株当たり純資産の額は、前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して算定しております。

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
27年7月期	—	0.00	—	82.00	82.00
28年7月期	—	0.00	—		
28年7月期(予想)				44.00	44.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

(注) 平成27年8月1日付で普通株式1株につき普通株式2株の割合で株式分割を行っております。
平成27年7月期については当該株式分割前の実際の配当金の額を記載しております。

3. 平成28年7月期の連結業績予想(平成27年8月1日～平成28年7月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭	
通期	40,000	6.2	8,100	5.4	8,100	4.1	5,250	6.3	111.26	

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 有
新規 1社 (社名) 株式会社ドクターシーラボ、除外 1社 (社名)

(注)詳細は、添付資料P.4「2. サマリー情報(注記事項)に関する事項(1)当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動」をご覧ください。

- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注)詳細は、添付資料P.4「2. サマリー情報(注記事項)に関する事項(2)四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用」をご覧ください。

- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
② ①以外の会計方針の変更 : 無
③ 会計上の見積りの変更 : 無
④ 修正再表示 : 無

(注)詳細は、添付資料P.4「2. サマリー情報(注記事項)に関する事項(3)会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」をご覧ください。

- (4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	28年7月期3Q	47,185,255 株	27年7月期	50,854,600 株
② 期末自己株式数	28年7月期3Q	— 株	27年7月期	3,668,676 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	28年7月期3Q	47,185,322 株	27年7月期3Q	49,770,224 株

(注)平成27年8月1日付で普通株式1株につき普通株式2株の割合で株式分割を行っております。
発行済株式数は、前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して算定しております。

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績の見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P.3「1. 当四半期決算に関する定性的情報(2)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(セグメント情報等)	9
(重要な後発事象)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、雇用・所得環境の改善環境が続く中、各種政策の効果もあり、緩やかな回復に向かうことが期待されております。ただし、中国を始めとするアジア新興国等の景気が下振れをし、わが国の景気が下押しされるリスクが存在しております。また、平成28年熊本地震の経済に与える影響に十分留意する必要があります。このような環境の中、純粋持株会社化に伴う事業領域の拡大に資する事業として、化粧品事業と親和性の高いエステ・サロン事業の取り込みをすべく、株式会社シーズ・ラボの株式を70%取得し、連結子会社化いたしました。

当第3四半期連結会計期間から新たに株式会社シーズ・ラボが連結対象となり、前年同期と比較して連結売上高が増加したことに加え、広告宣伝の効率性を重視し、全体の出稿額を予算比で抑制した結果、売上高は26,528百万円（前年同期比1.7%増）、営業利益は4,328百万円（前年同期比11.0%増）、経常利益は4,293百万円（前年同期比8.5%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は2,844百万円（前年同期比12.9%増）となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

<化粧品事業>

化粧品販売においては、昨年11月の「アクアコラーゲンゲルエンリッチリフトEX」のリニューアル発売以降、既存のお客様を中心に、各販路で好調な売れ行きとなりました。また、「VC100エッセンスローション」については、幅広い年齢層の顧客や外国人観光客への訴求を強化するとともに、販路ごとの販売活動を強化してまいりました。ジェノマーブランドは、ハンドクリームをリニューアルしたことに加え、「リップケアグロス」や「エクストラアイラッシュ」といったメイク商品を新たなラインナップとして新発売いたしました。ラボラボブランドは、「スーパー毛穴ローション」を始めとした毛穴ケア関連商品が、当第3四半期連結累計期間を通じて好調な売れ行きでした。高いインバウンド需要がある中、当社としても安定した商品の供給をすることができました。以上により、化粧品事業の売上高は、23,983百万円（前年同期比3.9%増）、セグメント利益は3,836百万円（前年同期比2.9%減）となりました。

<健康食品事業>

健康食品事業においては、健康食品全体の売上高を牽引している「美禅食」が、前年同期と比較し、広告の出稿を減少させたことにより、前年同期比で売上高が減少しました。理由といたしましては、相対的に販売単価が高く、かつ、継続購入が期待できる化粧品事業の商品に広告割合の比重を高めたことによるものです。一方で営業損益については、売上に対する広告販促費用の費用対効果が向上したことにより、前年同期比で黒字に転化いたしました。以上により、健康食品事業の売上高は、1,998百万円（前年同期比33.6%減）、セグメント利益は424百万円（前年同期は営業損失51百万円）となりました。

<エステ・サロン事業>

エステ・サロン事業においては、当第3四半期連結会計期間に株式会社シーズ・ラボを連結子会社化したことに伴い、同社が運営するエステ・サロン事業を新たな報告セグメントといたしました。当第3四半期連結会計期間においては、新規導入したメニューにより、既存顧客の追加契約が増加し、売上高の増加に貢献しました。また、シーズ・ラボの各店舗において、ドクターシーラボブランドを始めとした化粧品等の販売も、積極的な展開を開始しました。以上により、エステ・サロン事業の売上高は、564百万円、セグメント利益は72百万円となりました。

次に化粧品事業及び健康食品事業を販路別に見ますと、通信販売においては、2015年11月に「アクアコラーゲングルエンリッチリフトEX」のリニューアル発売以降、購入履歴の長い優良顧客の人数が順調に積み上がってまいりました。また、新規顧客獲得を目的として「アクアコラーゲングルエンリッチリフトEX」と「VC100エッセンスローション」のテレビCMを放映したことに加え、休眠顧客の掘り起こし等を目的として、ダイレクトメールの配信、割引券・販促品を使った販促プログラムを実施してまいりました。この他にも、通信販売限定のアクアコラーゲル発売を行い、休眠顧客等に反響がございました。しかしながら、依然として新規顧客の獲得数及び購入履歴の短い顧客の購入継続率が想定を下回る結果となりました。以上により、通信販売の売上高は16,826百万円となり、前年同期と比較して3.5%減少いたしました。

対面型店舗販売では、お手入れ会やカウンセリングサービスなど、お客様の満足度向上を目的として対面型店舗ならではのサービスを引き続き実施したと共に、一部の店舗ではリニューアル改装を行いました。また、外国人観光客のインバウンド需要につきましては、当社直営店舗の銀座本店に加え、新宿・池袋エリアの百貨店での販売にも力を入れてまいりました。しかしながら、来店客数及び来店回数の増加を目的とした店舗活動を実施したものの、想定数を上回るには至らなかったことで、対面型店舗販売の売上高は、2,705百万円となり、前年同期と比較して4.7%減少いたしました。

卸売販売においては、旧正月シーズンやお花見シーズンに向けて、「スーパー毛穴ローション」をドラッグストア中心に積極的な出荷を行い、中国・東南アジアの観光客から、当初予想を大きく上回るお買い求めがありました。また、「VC100エッセンスローション」につきましても、インバウンド対応強化の一環として、中国人スタッフにより主要卸先店舗での入店販売を実施するなど、店頭での拡販活動に努めた結果、好調な売れ行きとなりました。以上により、卸売販売の売上高は、5,220百万円となり、前年同期と比較して1.9%増加いたしました。

海外においては、香港は旧正月シーズンにおける中国人観光客が増加し、「スーパー毛穴ローション」を中心に好調な売れ行きでした。「VC100エッセンスローション」につきましても、SNS広告や会員向けのメルマガ配信を行ったこともあり、前年同期を大きく上回る販売状況でした。台湾は、百貨店において需要期のセールが好調だったことに加え、ECサイトにおいては商品がメディアで取り上げられた影響もあり好調な販売状況でした。シンガポールでは、オープンから3周年を迎えたION店舗での売上が、各種イベントでの告知活動の成果もあり、好調でした。また商品の認知度も、主力雑誌で特集に取り上げられるなど、シーラボブランド・ラボラボブランド共に底上げされております。この他、主に中国人観光客を対象として、免税販売を取り扱う空港店舗数を国内・海外共に拡大してまいりました。以上により、海外事業の売上高は、1,213百万円となり、前年同期と比較して73.9%増加いたしました。

(2) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成28年3月10日に発表しました連結業績予想は変更ありません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

持株会社体制への移行に伴う吸収分割における当社の経営管理事業、不動産管理事業並びに株式会社シーラボ・カスタマー・マーケティング及び株式会社MDサイエンスの株式に係る資産管理事業を除く一切の事業を承継させるため、ドクターシーラボ分割準備会社(平成27年12月1日付で「株式会社ドクターシーラボ」に商号変更)を平成27年9月10日に設立いたしました。平成27年12月1日付の事業承継後、当社子会社の売上高の総額が当社の売上高総額の100分の10以上となり、当社の特定子会社に該当することになりました。

なお、第2四半期連結会計期間より新たに設立した株式会社ドクターシーラボ(平成27年12月1日付で「ドクターシーラボ分割準備会社」から商号変更)について、連結の範囲に含めております。また、特定子会社の異動には該当していませんが、当第3四半期連結累計期間において、株式を取得した株式会社シーズ・ラボを連結の範囲に含めております。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

(会計方針の変更)

(企業結合に関する会計基準等の適用)

「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成25年9月13日。以下「企業結合会計基準」という。)、 「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号 平成25年9月13日。以下「連結会計基準」という。)及び「事業分離等に関する会計基準」(企業会計基準第7号 平成25年9月13日。以下「事業分離等会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間から適用し、支配が継続している場合の子会社に対する当社の持分変動による差額を資本剰余金として計上するとともに、取得関連費用を発生した連結会計年度の費用として計上する方法に変更しております。また、第1四半期連結会計期間の期首以後実施される企業結合については、暫定的な会計処理の確定による取得原価の配分額の見直しを企業結合日の属する四半期連結会計期間の四半期連結財務諸表に反映させる方法に変更しております。加えて、四半期純利益等の表示の変更及び少数株主持分から非支配株主持分への表示の変更を行っております。当該表示の変更を反映させるため、前第3四半期連結累計期間及び前連結会計年度については、四半期連結財務諸表及び連結財務諸表の組替えを行っております。

企業結合会計基準等の適用については、企業結合会計基準第58-2項(4)、連結会計基準第44-5項(4)及び事業分離等会計基準第57-4項(4)に定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期連結会計期間の期首時点から将来にわたって適用しております。

なお、当第3四半期連結累計期間において、四半期連結財務諸表に与える影響は軽微であります。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成27年7月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成28年4月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	12,495,299	11,546,410
受取手形及び売掛金	4,768,376	3,846,632
有価証券	251,416	304,490
商品及び製品	2,436,122	2,370,799
原材料及び貯蔵品	1,314,529	1,454,568
その他	626,824	1,107,203
貸倒引当金	△65,186	△97,313
流動資産合計	21,827,383	20,532,792
固定資産		
有形固定資産		
建物	786,084	1,091,542
減価償却累計額	△342,383	△399,827
建物(純額)	443,701	691,714
工具、器具及び備品	1,328,303	1,434,836
減価償却累計額	△1,101,576	△1,122,351
工具、器具及び備品(純額)	226,726	312,485
土地	1,315,697	1,315,861
その他	103,057	128,321
減価償却累計額	△51,666	△62,142
その他(純額)	51,390	66,178
有形固定資産合計	2,037,516	2,386,240
無形固定資産		
ソフトウェア	228,571	279,114
ソフトウェア仮勘定	238,604	582,958
のれん	—	2,252,891
その他	25,800	22,886
無形固定資産合計	492,975	3,137,851
投資その他の資産		
その他	422,045	932,430
貸倒引当金	△20,534	△20,534
投資その他の資産合計	401,511	911,895
固定資産合計	2,932,003	6,435,987
資産合計	24,759,386	26,968,779

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成27年7月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成28年4月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	446,057	843,667
未払金	1,368,661	1,631,089
未払法人税等	1,361,596	64,415
賞与引当金	145,631	180,234
ポイント引当金	144,637	140,302
その他	619,807	1,652,840
流動負債合計	4,086,392	4,512,550
固定負債		
退職給付に係る負債	156,058	182,826
その他	88,232	188,062
固定負債合計	244,290	370,889
負債合計	4,330,683	4,883,439
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,209,208	1,209,208
資本剰余金	1,686,608	1,686,608
利益剰余金	24,119,305	18,345,297
自己株式	△6,681,804	—
株主資本合計	20,333,318	21,241,114
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	21,608	45,626
為替換算調整勘定	73,776	53,517
その他の包括利益累計額合計	95,385	99,144
非支配株主持分	—	745,081
純資産合計	20,428,703	22,085,340
負債純資産合計	24,759,386	26,968,779

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成26年8月1日 至平成27年4月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成27年8月1日 至平成28年4月30日)
売上高	26,088,974	26,528,991
売上原価	4,815,486	5,117,618
売上総利益	21,273,487	21,411,373
販売費及び一般管理費	17,375,133	17,083,057
営業利益	3,898,354	4,328,316
営業外収益		
受取利息	3,296	2,899
受取配当金	1,045	1,153
為替差益	52,899	—
受取手数料	18,466	24,048
商品破損受取賠償金	13,445	8,816
その他	18,913	18,630
営業外収益合計	108,067	55,547
営業外費用		
支払利息	522	413
支払手数料	48,754	—
為替差損	—	89,979
その他	932	335
営業外費用合計	50,209	90,728
経常利益	3,956,212	4,293,135
特別損失		
減損損失	2,537	15,091
固定資産除却損	2,194	369
子会社清算損	—	26,834
特別損失合計	4,732	42,296
税金等調整前四半期純利益	3,951,480	4,250,839
法人税等	1,432,426	1,379,638
四半期純利益	2,519,054	2,871,200
非支配株主に帰属する四半期純利益	—	27,180
親会社株主に帰属する四半期純利益	2,519,054	2,844,020

(四半期連結包括利益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成26年8月1日 至 平成27年4月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成27年8月1日 至 平成28年4月30日)
四半期純利益	2,519,054	2,871,200
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	14,481	24,304
為替換算調整勘定	68,099	△41,341
その他の包括利益合計	82,580	△17,037
四半期包括利益	2,601,634	2,854,162
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	2,601,634	2,826,696
非支配株主に係る四半期包括利益	—	27,466

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自平成26年8月1日至平成27年4月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	化粧品事業	健康食品事業	四半期連結損益計算書 計上額
売上高			
外部顧客への売上高	23,079,965	3,009,008	26,088,974
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—
計	23,079,965	3,009,008	26,088,974
セグメント利益又は セグメント損失(△)	3,949,772	△51,418	3,898,354

(注)セグメント利益又はセグメント損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

II 当第3四半期連結累計期間(自平成27年8月1日至平成28年4月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			合計	調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	化粧品事業	健康食品 事業	エステ・サ ロン事業			
売上高						
外部顧客への売上高	23,965,833	1,998,757	564,400	26,528,991	—	26,528,991
セグメント間の内部 売上高又は振替高	17,272	—	—	17,272	△17,272	—
計	23,983,106	1,998,757	564,400	26,546,264	△17,272	26,528,991
セグメント利益	3,836,099	424,752	72,443	4,333,295	△4,978	4,328,316

(注)1. セグメント利益の調整額△4,978千円は、セグメント間取引の消去等を表しております。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(のれんの金額の重要な変動)

エステ・サロン事業セグメントにおいて、当第3四半期連結会計期間より株式会社シーズ・ラボの株式取得による連結子会社化に伴い、のれんが発生しております。なお、当該事象によるのれんの発生額は2,325,565千円であります。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

当社グループは、当第3四半期連結会計期間において、株式会社シーズ・ラボを連結子会社としたことに伴い、同社が運営するエステ・サロン事業を新たな報告セグメントといたしました。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。